

2020年10月7日 全5頁

2021年のASEAN経済の行方は？

明暗が分かれるASEAN経済—明はベトナム、暗はタイ

経済調査部 研究員 古橋櫻子

[要約]

- 2020年4～6月期は、新型コロナウイルス感染症の抑制を目的としたロックダウン（的な措置）の影響が本格的に表れた。内外需要が急減し、ベトナムを除くASEAN5各国（インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ）はマイナス成長に陥った。各国の実質GDP成長率を産業別に比較したところ、製造業や観光業の落ち込みが顕著である。
- フィリピンとインドネシアを中心に、感染拡大は未だ収まっていない。しかし、ロックダウン（的な措置）が経済に与える悪影響は大きく、それに耐えられない両国は、感染拡大が収まらない中で経済活動を再開させている。財政は悪化を余儀なくされるも、多様な経済対策を打ち出すことで景気の下支えを図っている。
- 経済活動の再開により、今後は輸出や投資などの改善が期待される。ただし、新型コロナウイルス感染症は流行を繰り返す懸念があり、海外景気の先行きも不透明なため、経済活動の水準が元に戻るまでには時間を要すると考える。中でも、タイなど観光業への依存度が高い国の景気回復ペースは他国よりも緩やかだろう。
- 一方、いち早く感染の抑え込みに成功し、ASEANで最も早く経済活動の正常化に踏み切ったベトナムの回復力は強いと予想する。企業・家計向けの給付金支援を迅速に実施し、企業や家計の経済的損失も最低限に抑えている。政府は今後大規模な公共事業を実行することで雇用・所得環境の改善を目指す方針であり、景気回復は力強さを増していくだろう。

ASEAN5とコロナ・ショック

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年4～6月期にかけて世界的に景気が大きく落ち込んだが、ASEAN5（インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム）も例外ではない。本レポートでは、各国の経済成長率に影響を及ぼすと考えられる重要な要素である産業構造、感染状況、経済対策を取り上げ、現況を踏まえた上で今後の景気回復力が強い国・弱い国を予想する。

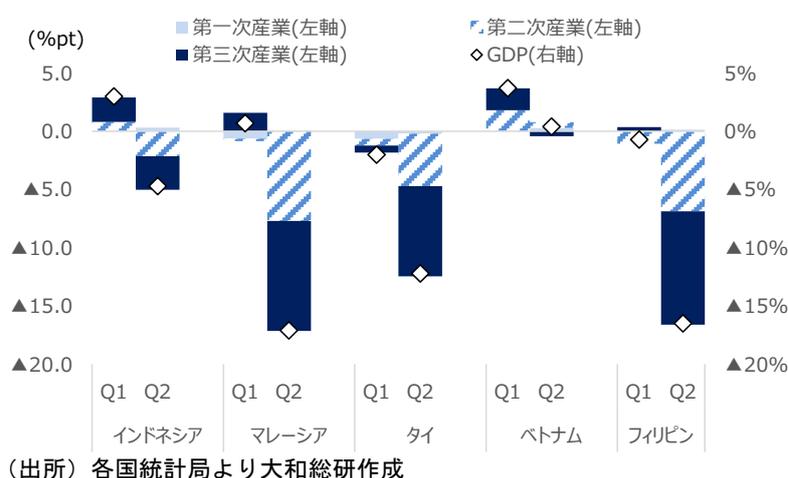
ASEAN5では3月末より、感染拡大抑制を目的としたロックダウン（的な措置）が実施された。その悪影響は即座に表れ、内外需要は急減し、4～6月期はベトナムを除く各国でマイナス成長

に陥った。各国の実質 GDP 成長率（前年同期比）は、マレーシアの▲17.1%を筆頭に、フィリピンとタイで二桁台のマイナスを記録した。インドネシアも▲4.7%まで落ち込んだ一方で、ベトナムは0.4%と、唯一プラス成長を維持した。

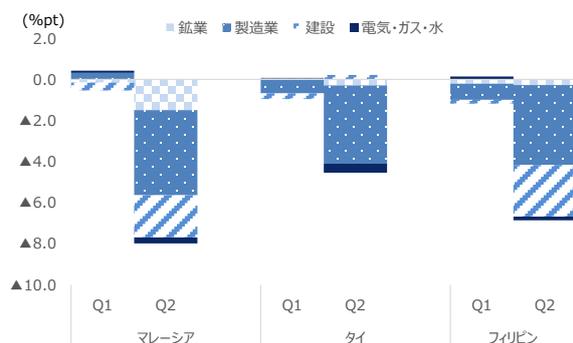
各国の経済成長率を産業別に比較したところ、4～6月期は第2次産業および第3次産業の落ち込みが顕著である（図表1）。特に、マレーシアとフィリピンにおける両産業の急減が目立つ。マレーシアにおける第2次産業のGDP成長率への寄与度は▲7.7%ポイント（1～3月期▲0.2%ポイント）、第3次産業は▲9.4%ポイント（同+1.6%ポイント）まで落ち込んだ。フィリピンにおいても、第2次産業が▲6.9%ポイント（同▲1.0%ポイント）、第3次産業が▲9.7%ポイント（同+0.4%ポイント）と、前期からの大幅な悪化が明らかである。

両国に次いで景気の落ち込みが大きいタイも含め、第2次産業では製造業の寄与度のマイナスが大きい（図表2）。製造業の低迷には、海外でも多くの国で実施されたロックダウン（的な措置）によって他国からの原材料調達が困難になり、さらには自国での労働者の確保が困難になったことから、操業停止や生産活動の制限を余儀なくされたことが背景にある。第3次産業については、マレーシアとフィリピンでは卸売・小売業と輸送・通信業が低調である（図表3）。タイでは観光業が同国の成長をけん引してきただけに、全産業の中でホテル・レストラン業の落ち込みが最大となった。感染拡大を防止するために人・モノの動きが止められたことで、これらの産業は直接的かつ深刻な影響を特に受けている。

図表1 2020年におけるASEAN5の産業別GDP、寄与度（前年同期比）

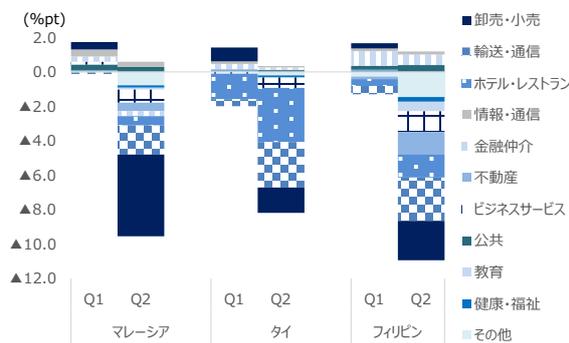


図表2 2020年の第2次産業の業種別寄与度
(前年同期比)



(出所) 各国統計局より大和総研作成

図表3 2020年の第3次産業の業種別寄与度
(前年同期比)

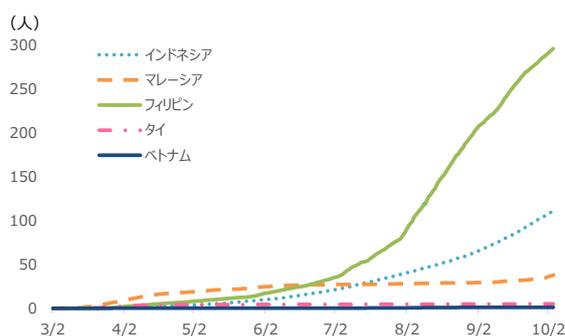


(出所) 各国統計局より大和総研作成

感染拡大状況と経済対策

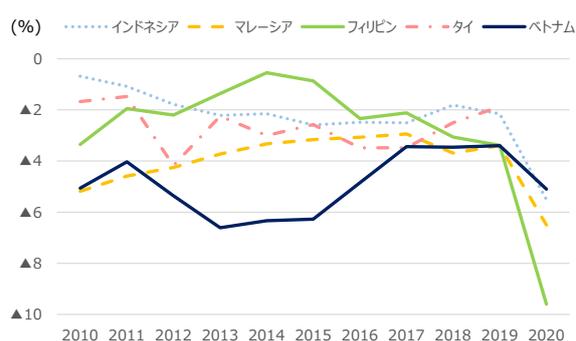
ベトナムとタイは比較的感染者数が少なく、感染拡大の抑制に成功している模様である(図表4)。マレーシアも感染者数は一定程度にとどまっております、感染拡大を抑えられつつある。一方、フィリピンとインドネシアの感染者数は現在も増加傾向にあり、収束の見通しは立っていない。両国政府は感染拡大が収まっていな中、半ば強引に経済活動を再開させた。この背景には、ロックダウン(的措置)が経済に与える悪影響が大きく、経済や財政がそれに耐えられなかったことがある。中でも、フィリピンでは2020年の財政赤字が対GDP比9.6%まで膨らむと予測されている(図表5)。

図表4 ASEAN5 各国の累計感染者数推移(10万人当たり)



(出所) 各国統計局より大和総研作成

図表5 ASEAN5 各国の財政赤字対GDP比推移



(注) 2020年のベトナム、フィリピン、マレーシア、インドネシアは各国政府による予測値。

(出所) 各国統計局より大和総研作成

各国は財政悪化を余儀なくされるも、多様な経済対策を打ち出すことで景気の下支えを図っている(図表6)。経済対策の総額は各国で異なり、GDP比で最も高いのはタイの15%である。同国がこれまで実施してきた対策は、タイ中銀による金融面の施策(社債購入や低利融資など)が多く含まれてきた一方で、雇用や家計向けの対策が他国に比べて不十分だった。しかし、今月

に入り休職・失業手当の拡充などを新たに発表しており、今後も消費喚起に向けた追加措置の導入を継続する方針である。ただし、7月から続く反政府デモが長引いた場合、同国の経済を圧迫する可能性がある点には留意したい。

図表 6 感染拡大に対する ASEAN5 各国の経済対策

国	GDP比	主な内容
タイ	15%	失業者向けの現金給付 農家への財政支援 中小企業など企業への低利融資
ベトナム	10%	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた企業・家計向け給付金 法人税・所得税の減税措置 電気料金の減免
フィリピン	9%	低所得層を対象に現金給付 失職した国内外の自国民に対する給付 税やローンの支払猶予
インドネシア	4%	貧困家庭向けの条件付き現金給付プログラム 必需品の支給などの社会保障 法人の予納税の減免などの税制緩和
マレーシア	3%	失業・雇用対策（従業員の雇用維持などを条件に支給） 企業活動の推進（中小企業向け低利融資基金） 消費刺激・デジタル化推進（キャッシュレス決済の推進）

（出所）各種報道等より大和総研作成

2021 年の ASEAN 経済の行方は？

IMF は 2020 年 6 月時点で、感染拡大が年内に収束した場合、通常の経済活動が再開し、2021 年の ASEAN5 各国の経済成長率は V 字回復するとの見通しを示している（図表 7）。以下では、これまで挙げた要素を基に、今後景気の回復力が強い国と弱い国について検討する。

各国は 6 月から段階的な経済活動を再開しているため、今後は輸出や投資などが改善していくと期待できる。実際、各国の製造業 PMI は 4 月をボトムに改善傾向にある（図表 8）。しかし、9 月時点での同指数はベトナムとフィリピンがわずかに景況感判断の境界である 50 を上回ったのみであり、その他の国々は未だ 50 を下回っている。新型コロナウイルス感染症は流行を繰り返す懸念があり、海外景気の先行きも依然として不透明なため、経済活動の水準が元に戻るまでには時間を要すると考える。中でも、タイなど観光業への依存度が高い国の景気回復ペースは他国よりも緩やかだろう。外食産業や観光業は感染予防と最も両立しがたく、感染拡大が収束するまでは回復が見込みづらい。すでに、タイ観光庁長官は観光業が復活するのは 2021 年以降になる見込み、との見解を示している¹。

一方、いち早く感染の抑え込みに成功し、ASEAN で最も早く経済活動の正常化に踏み切ったベトナムの回復力は強いと予想する。企業・家計向けの給付金支援を迅速に実施し、企業や家計の経済的損失も最低限に抑えている。政府は今後大規模な公共事業を実行することで雇用・所得

¹ TTG Asia “TAT deputy governor dashes hopes of 2020 reopening for Thailand’s international borders”
<https://www.ttgasia.com/2020/08/07/tat-deputy-governor-dashes-hopes-of-2020-reopening-for-thailands-international-borders/>

環境の改善を目指す方針であり、景気回復は力強さを増していくだろう。

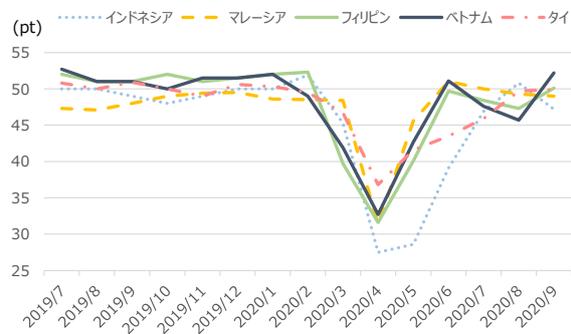
図表7 ASEAN5 各国の経済成長率推移

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
インドネシア	5.1	5.2	5.0	▲0.3	8.2
マレーシア	5.7	4.7	4.3	▲3.8	9.0
フィリピン	6.7	6.2	6.0	▲3.6	7.6
タイ	4.1	4.2	2.4	▲7.7	6.1
ベトナム	6.9	7.1	7.0	2.7	7.0

(注) 2020、2021年は予測値。

(出所) IMF より大和総研作成

図表8 ASEAN5 各国の製造業 PMI 推移



(出所) IHS Markit より大和総研作成